

戦後70年首相談話

内閣総理大臣 安倍晋三

平成二十七年八月十四日

[戦後70年首相談話](#)

村山談話 平成七年八月十五日

[戦後50年の村山談話全文](#)

小泉談話 平成十七年八月十五日

[戦後60年の小泉談話全文](#)



謝罪の文言は際立ったが平和を支えた国民へのねぎらいは目立たず

安倍晋三首相による「戦後70年の首相談話」は、8月15日の「終戦記念日」を前にして、8月14日の臨時閣議で閣議決定したあと、夕刻に官邸での記者会見で発表された。記者会見のようすは「談話」とはいえず、左右の「プロンプター」(原稿映写機・下)をみながらの原稿の「朗読」であった。会見で全文を聞き、8月15日正午の終戦記念式典での黙とうを終えてから、新聞掲載の全文を読みなおしてみたが、内容が一般化され間接表現になっていて、安倍首相の思いがどこにあるのか、「心音」が伝わってこなかった。大方の見方もそのようである。

村山談話、小泉談話の継承が注目されていた「植民地支配」「侵略」「痛切な反省」「心からのお詫び」といった文言は確かにはいっているが、「政治家・首相として私は・・・」という主体的な発言は抑えられて、「21世紀構想懇談会」が共有した一定の認識による提言の上になつて(記者会見での冒頭発言)、「こういう理由でこうなつた」という有識者の認識に終始したからであろう。日本政府の発表による英訳のなかにも「私は」「I bow my head deeply・・・」(深く頭を垂れ)や「I find myself speechless・・・」(今なお言葉を失い)など4カ所で、あとはすべて「We」か「Japan」が主体者である。だから「そうならないために私はこうする」という首相自らのことばがほとんどない。謝罪の文言は際立つが、70年間の平和を支えてきた国民へのねぎらいは目立たない。

当然のことながら、不戦の憲法のもとでの70年の平和を誇りとし、戦禍を胸深くに留めながらそれを支えてきた高齢者へのねぎらいから始めるべきだろう。(2015・8・15堀内 記)



おわびの気持ち「今後も揺るぎない」 安倍談話発表

朝日デジタル 2015年8月14日 18時33分

安倍内閣は14日夕の臨時閣議で、戦後70年の談話（安倍談話）を閣議決定した。安倍晋三首相は閣議後に首相官邸で記者会見し、談話を発表した。

安倍談話は戦後50年の村山談話、60年の小泉談話などを念頭に、「我が国は、先の大戦における行いについて、繰り返し、痛切な反省と心からのおわびの気持ちを表明してきた」と言及。その上で「こうした歴代内閣の立場は、今後も、揺るぎないものである」として、安倍内閣として過去の談話を引き継ぐ考えを示した。

また、「（日本は）進むべき針路を誤り、戦争への道を進んでいった」と指摘。「植民地支配から永遠に決別し、すべての民族の自決の権利が尊重される世界にしなければならない。先の大戦への深い悔悟の念と共に、我が国は、そう誓った」と記し、歴代の首相談話にあった「植民地支配」の文言にも触れた。

一方、「あの戦争には何ら関わりのない、私たちの子や孫、そしてその先の世代の子どもたちに、謝罪を続ける宿命を背負わせてはならない」とも主張。「『積極的平和主義』の旗を高く掲げ、世界の平和と繁栄にこれまで以上に貢献していく」と、首相の持論である「未来志向」を強調した。

中国外務省「いかなるごまかしもすべきではない」と批判

韓国メディアは「過去形謝罪」と報道

産経ニュース 2015.8.15 07:00

【北京＝川越一】中国外務省の華春瑩報道官は14日、安倍晋三首相の戦後70年談話について、「日本は当然、戦争責任を明確に説明し、被害国の人民に誠実に謝罪し、軍国主義の侵略の歴史を切断すべきだ。この重大な原則問題についていかなるごまかしもすべきではない」と批判する談話を出した。

華報道官は談話の中で、張業遂筆頭外務次官が同日、木寺昌人駐中国大使に中国側の厳正な立場を伝えたと明らかにした。

また、中国国営新華社通信（英語版）は同日、安倍首相が、日本の「侵略」「植民地支配」については直接触れず、一般論にとどめたことに不満を示し、「未来の世代は、大戦中の残虐行為について謝罪を続ける必要はないと付け加えた」と反発をにじませた。

中国共産党系の国際情報紙、環球時報（電子版）は、安倍首相が侵略を受けた国・地域

に対する「お詫び」に言及した中で、「中国」が最後に列挙されたことや、これとは別に「台湾」が個別に言及されたことにも、不快感を示した。

安倍首相の70年談話 「評価する」は44・2%

共同通信社が14、15両日に実施した全国電話世論調査によると、戦後70年に当たって安倍首相が発表した首相談話を「評価する」との回答は44・2%、「評価しない」は37・0%だった。

参院で審議している安全保障関連法案の今国会成立に反対は62・4%、賛成は29・2%。内閣支持率は43・2%で、前回7月の37・7%から5・5ポイント上昇した。不支持率は46・4%だった。

透明パネルに原稿が流れる「スピーチプロンプター」

日経ビジネス 2014年11月25日(火)

武田 砂鉄 編集者出版社勤務を経てフリー

このところ安倍晋三首相は、主要な会見で、事前に用意された原稿が透明パネルに映る「スピーチプロンプター」を多用している。18日に行われた解散表明の会見でも使用しており、斜め前の両サイドに立てられた20センチ四方ほどの透明パネルに、原稿が流れてくる体制で臨んでいた。このプロンプターを首相時代に頻繁に使っていたのが、「未曾有」を「みぞうゆう」と読み間違えるなど、中学受験でも合格が危ぶまれる国語力を連発していた麻生太郎財務大臣だと知ると、このプロンプターのお役立ちぶりが分かる。安倍首相は東京五輪のプレゼンで使ったのがお気に召したのか、とみにプロンプターを使うようになった。

下を向いて原稿を棒読みせず済む

安倍首相が、官邸で初めてプロンプターを使ったのは昨年末のASEAN会議でのこと。当時の報道によれば「先月下旬とこの日の会見直前に使い方を試し、本番に臨んだ」（朝日新聞デジタル）とある。下を向いて原稿を棒読みせず済むプロンプターの利点は、原稿を読みながらも、顔を上げて自由に身振り手振りできる点にある。今回は、個人消費が1年前から2%以上も減少してしまい、消費税増税を延期せざるを得なくなった旨を発表する窮地の場。強気な宰相のイメージで乗り切るために、出来る限りの練習をしたはず。